

登録コード:MH309200 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目 必修
科目名	理学療法評価法実習【20M～24M】 Assessment and Evaluation in Physical Therapy practice		
担当教員	百瀬 公人 横川 吉晴・西澤 公美・小宅 一彰・北川 孝		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	理学療法専攻/2年 後期 木曜・3時限 木曜・4時限 木曜・5時限		
単位数、講義室	2単位 保健学科111講義室	遠隔授業科目	
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素	授業の達成目標	
	MH20カリ・保健		
	生命を尊び、人間についての幅広い知識を身に付け、対象を全人的に理解して、人々の健康を支援することができる。	ICFの概念を基盤として、対象を全人的な視点から捉えることができる	
	保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができる。	妥当性・信頼性のある評価を行い、その結果をICFのフレームワークに整理できる	
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。	臨床現場において理学療法士に求められる資質について具体的に説明することができる	
	保健・医療・福祉の現場において、専門職者として自己の責任を自覚し、チームの一員として協働活動に参加できる。	臨床現場において理学療法士に求められる責任について具体的に説明することができる	
	MH25カリ・保健・理学、MH23カリ・保健・理学		
	基礎的・専門的な知識と技能 保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。	妥当性・信頼性のある評価を行い、その結果をICFのフレームワークに整理できる	
	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	臨床現場において理学療法士に求められる責任について具体的に説明することができる	
授業で学べる「テーマ」	健康長寿		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	本授業は、2年次の理学療法評価法 で学んだ形態、関節可動域、筋力、バイタルサインなどの検査・測定や精神機能・運動機能に関する神経学的検査、問診などの理学療法評価を医学部附属病院において実際の症例を対象として実施し、それらの評価結果をICFのフレームワークに整理することによって、対象者や対象者を取り巻く状況を包括的に把握するための考え方と方法について学修します。また、本授業の内容は3年次の臨床基礎実習、4年次の臨床実習における重要な基礎知識となります。 本授業は、担当教員の医療機関における理学療法士としての実務経験を活かして演習を行います。		
授業計画	理学療法評価法の授業で学習した各種検査・測定を、信州大学医学部附属病院リハビリテーション部において、実際の症例を対象として実施します。 診療参加型臨床実習として見学、協同参加、実施の段階を踏んで行われます。また、SBOsの内容の他に、臨床実習指導者の指導のもとで学生が行えると判断した行為についても実習として行うことがあります。 具体的な実習日程については、第1回オリエンテーションにおいて配布します。 なお、実習期間は授業期間中の火曜日の午後、水曜日の午後、木曜日の午後などを利用します。また、一部の学生は春休み期間中の連続4日間の日程となります。		
授業の進め方	1グループ2名～3名で担当教員ごとに分かれて、学内外の医療機関での評価実習を行います。また、実習終了後に報告書を行い、各自が学んだ内容や自身の課題などについて発表し、担当教員からフィードバックを行います。 実習の具体的な進め方は次の通りです。 1) 担当教員による実習オリエンテーション。 2) 評価に関する学生同士の事前練習、評価法に関する自己学習（ポートフォリオ）を行う。 2) 実習当日は、実習指導者の指導・監督のもとで実際の評価を実施する。 3) 実習終了後、体験内容をチェックシートに整理するとともに、対象や対象者を取り巻く状況をICFのフレームワークに整理してポートフォリオにファイリングする。 4) 実習終了後の報告会において、実習で学んだことや自身の課題について発表し、それに対して教員からフィードバックを行う。		
テキスト、教材、参考書	参考書：新・徒手筋力検査法（協同医書出版社） 理学療法評価学 第4版（金原出版株式会社） 国際生活機能分類－国際傷害分類改訂版－（中央法規）		
成績評価の方法	評価は、実習の取り組み状況、および、ポートフォリオ、発表資料の内容に基づいて評価します。 評価の配分は実習の取り組み40%、ポートフォリオ40%、発表20%です。 実習の取り組みでは患者に対して指導のもとに実施できることを評価します。 ポートフォリオでは、自己学習の内容の質と量を評価します。 発表資料についてはその論理性を評価します。		

成績評価の基準	下記の基準に基づいて、実習状況、ポートフォリオ、報告会に関する評価を行います。 秀(90-100点)：授業の達成目標水準から見て卓越している 実習課題を高度な自主学習内容を含めて論理的に説明できる 優(80-89点)：授業の達成目標水準よりかなり上にある 実習課題を簡単な自主学習内容を含めて論理的に説明できる 良(70-79点)：授業の達成目標水準よりやや上にある 実習課題を基礎的知識をもとに論理的に説明できる 可(60-69点)：授業の達成目標水準にある 実習課題を基礎的知識をもとに説明できる 不可(0-59点)：授業の達成目標水準より下にある 基礎的知識を利用できない 総計の60%以上を合格とします。
事前事後学習の内容	【事前学習について】 実習の1週間前までに担当教員から症例情報と準備すべき課題についての説明がありますので、それにしたがって知識と技術の予習を行うようにしてください。予習した内容はポートフォリオにまとめてください。 【事後学習について】 毎回の実習後には実習中に分からなかったことや指導された内容をポートフォリオにまとめてください。全実習終了後に報告会を行いますので、実習で学んだことを踏まえて、知識・技術・技能の復習に取り組むようにしてください。とくに、技能的な点については、学生同士でペアとなって、継続的に練習を行うようにしてください。 報告会においては臨床実習で学んだことというタイトルでパワーポイントに発表資料を作成してください。内容は評価の意思決定方法、カルテ記載の方法についてです。 本授業の単位修得には90時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間60時間 + 自己学習時間30時間= 90時間 * 以上の自己学習時間を考慮して、事前・事後学習に意欲的に取り組んでください。
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	学生同士が模擬患者となって、オリエンテーション、評価に関する準備的学習を行ってから実際の患者さんの評価に臨むようにしてください。 質問・相談への対応：百瀬 公人 オフィスアワーとメールアドレス： 研究室は南校舎4階です。月曜日12時～13時、kmomose@shinshu-u.ac.jp